名古屋電気学園
クラブ活動だより

愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

令和４年秋季版

（令和４年 11 月 15 日）

夏の甲子園、 41 年ぶり８強！

愛工大名電高校野球部が、夏の甲子園で41年ぶりとなる８強入りを果たしました。

第１０４回全国高校野球選手権大会愛知大会で２年連続14回目の頂点に立った同部は、新たな伝統になった「超攻撃野球」に磨きをかけて並み居る強豪を連破。夏の甲子園で工藤公康投手を擁して４強入りした１９８１年に次ぐ大きな３勝を挙げました。

東邦を破って甲子園出場を決めた愛工大名電ナイン（７月３０日付・中日新聞号外から）

７月 30 日、激戦区愛知の頂点に

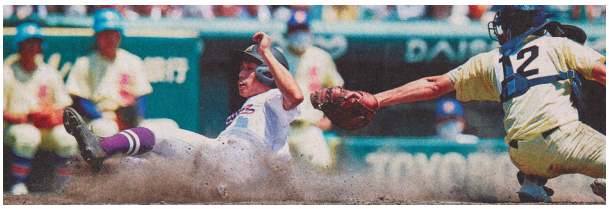
７月３０日、岡崎レッドダイアモンドスタジアムで行われた愛知大会決勝で東邦高校に勝利し、２年連続で甲子園出場を決めました。

今夏の愛知大会の参加校は全国最多の１７５チーム。昨年度優勝校である本校は、他校から厳しくマークされる対象でした。そうした中、初戦で半田商業高校を１０－０、２戦目には同朋高校を１６－１、３戦目には豊田西高校を８－１、さらに準々決勝では三河の強豪校である豊川高校を９－２と、圧倒的な攻撃力と安定した投手力で、４戦連続のコールド勝ちを収めました。

準決勝では愛知啓成高校に食い下がられる場面もありましたが、劇的なホームラン２本を放ち７－４で勝利。決勝戦では好投手を擁する東邦高校と一進一退の展開となりましたが、中盤一気に流れを引き寄せ、７－４で激戦区愛知の頂点に立ちました。

愛工大名電―愛知啓成　８回表、勝ち越し３ランを放ち、チームメートと喜び合う藤山ら（７月29日付・中日新聞県内版から）

甲子園選評　一回戦から準々決勝まで



８月９日付・中日新聞県内版から

■一回戦 (8/7)　愛工大名電１４－２星稜

名門校同士の対決と注目された初戦は序盤から打線が爆発し、１５安打１４得点で大勝しました。一回、山田空暉（３年）の２点適時打など単打４本を連ねて５点先取。二回には満塁の好機に美濃十飛（３年）が走者一掃の二塁打を放つなど５得点しました。四回にも市橋昂士（３年）らが適時打を決め、美濃は四回までに６打点の活躍です。先発した有馬伽久（３年）は走者を出しながら要所を締め、８回２失点と好投しました。

８月９日付・中日新聞運動面から

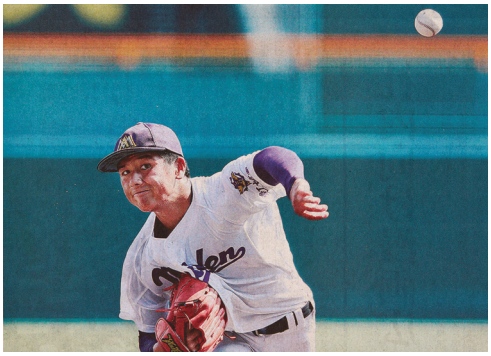
■二回戦 (8/12)　愛工大名電６－５八戸学院光星

延長十回、サヨナラ勝ち。接戦をものにし、４１年ぶりとなる夏の甲子園の２勝を挙げました。一回裏、先頭の加藤蓮（３年）が単打で出塁。相手守備の乱れを突いて一気に三塁を蹴り、鮮やかに先制しました。先発の有馬がつかまり４点を追う七回、市橋と美濃の連続適時打などで４点を奪い返し、試合は振り出しに。延長十回、先頭の有馬が三塁打を放って好機をつくり、無死二、三塁から美濃の打球が前進守備の二遊間を抜けました。

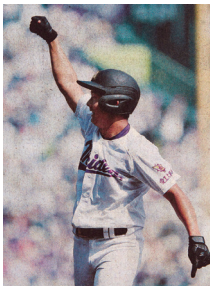
八戸学院光星-愛工大名電　１０回裏愛工大名電無死二、三塁、サヨナラ打を放ち加藤⑧に迎えられる美濃（８月１３日付・中日新聞運動面から）

■三回戦 (8/15)　愛工大名電５－２明豊

３試合連続２桁安打となる１２安打を放ち、投打もかみ合って準々決勝に弾みをつけました。初回、山田の犠飛で先制。１点差に迫られた直後の四回、市橋が足を使って三塁に進み、石見颯真（１年）の中前適時打で生還しました。五回には有馬と市橋が連続適時打を放ち、試合の流れを決めました。エース有馬は八回まで毎回走者を背負いながらも、粘りの投球で九回２失点完投。続投を志願して１２０球を投げ切りました。



８月１６日付・中日新聞運動面から



８月１６日付・中日新聞県内版から

■準々決勝 (8/18)　愛工大名電２－６仙台育英

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
愛工大名電	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
仙台育英	1	2	2	0	1	0	0	0	X	6

序盤から防戦を強いられる苦しい展開。エース有馬が二回で降板、三回に岩瀬法樹（３年）、山田と継投しました。八回一死、有馬が内野安打で出塁。続く市橋の二塁打で二、三塁とし、代打の河田凌太郎（２年）の内野ゴロの間に有馬が生還。九回二死、代打の金森洸喜（２年）が執念の内野安打。後続の遊ゴロが敵失を誘って生まれた好機に、四番山田が右越え二塁打を放って２点目。最後は相手の堅い守りに阻まれましたが、選手たちに球場全体から大きな拍手が送られました。

８月１９日付・中日新聞県内版から

※ここまでの写真は中日新聞社の許諾を得て転載しました。

VOICES

倉野光生監督

名電らしい戦い　ひときわ輝いた

３年ぶりに有観客となり、ブラスバンドの演奏とチアリーダー、大応援団の後押しがダイヤモンドを駆け回る選手の大きな後押し、パワーとなった第104回夏の甲子園。激戦区愛知を勝ち上がった勢いを、初戦から全開して思う存分に力を発揮し、『勝ち登れ！頂点に！』といわんばかりに勝利した。
打撃戦、接戦あり、延長ありと、強豪を相手に試合を重ねるごとに力をつけて、名電らしい戦いとプレーができた。躍動感と、合宿生活で養ったチームワークは、ひときわ輝きを放った。

甲子園で勝つのは難しい。しかし、時として、甲子園は、実力以上の力を出させてくれる。幾多の困難と苦しみに耐え、粘り強く戦う選手に加勢する、不思議な力が作用する夢の大舞台だ。

この夏の甲子園での４試合、41年ぶりの３勝は、昭和、平成、令和と時代と共に世の中が急速に進化していく中で、生徒、高校教職員、学園、OB、MEIDENファン、多くの皆様の甲子園の勝利への思いの詰まった軌跡であった。勝利の校歌に酔いしれんばかりだった。皆様の応援、ご支援に心から感謝、御礼申し上げます。ありがとうございました。

有馬伽久主将　３年

応援を力に　想いを一つに

愛知大会から10試合、吹奏楽部やチアリーディング部をはじめ、多くの方々の応援が力となり、甲子園ベスト８まで勝ち登ることができました。本当に感謝しています。

甲子園では、仲間と共に戦うこと、チームワークの大切さを学びました。チーム全員、そして皆さんの想いが一つになって戦うことができ、自分たちの持っている力以上のものが発揮されました。この経験を無駄にすることなく、大舞台で試合をしたことをひとりひとりが次のステージへ生かすことができるよう、今後も頑張りたいと思います。

吹奏楽部ドラムメジャー
水谷有羽さん　３年

3547チームの思いが募った夏の高校野球。その中を勝ち上っていく姿を見て、一丸となって戦うことの“本当の強さ”を感じました。その姿から、仲間という存在のありがたみや大切さをあらためて学びました。野球部の皆さん、ありがとうございました。

チアリーディング部野球応援係
山本ひかりさん　３年

甲子園球場という特別な場所で４回も応援させていただき、楽しんでプレーをしている姿や全員が最後まで諦めずに戦っている姿勢に毎試合、たくさんの刺激を受けました。高校生活最後の夏に忘れられない最高の思い出と感動をありがとうございました。

メディアコミュニケーション部
記録・編集担当
藤田力翔さん　２年

試合速報や動画作成という形で、野球部の皆さんの素晴らしい活躍を伝えることができ、とても貴重な経験となりました。愛知大会初戦から甲子園まで、たくさんの感動を分かち合うことで、部員同士の絆も深まりました。

インターハイ卓球６連覇！

２年連続で単・複・団体完全制覇　主将の鈴木は高校３冠

高校卓球部が、今夏の第９１回全国高等学校卓球選手権大会（インターハイ）で６大会連続２０回目の優勝を勝ち取りました。さらに個人種目のシングルスとダブルスでも優勝し、インターハイ完全制覇（２年連続）を達成しました。主将の鈴木颯（３年）は、昨年の谷垣佑真（現・愛知工業大１年）に続き、本校として２年連続となる全種目優勝（高校３冠）を成し遂げました。

インターハイ６連覇を成し遂げた高校卓球部

インターハイ卓球競技は７月29日～８月３日、愛媛県宇和島市総合体育館で開催されました。学校対抗の決勝は、３大会連続でライバル校・野田学園（山口県）との対決に。１番に起用された坂井雄飛（1年）が相手エースに敗れたものの、2番の吉山僚一（３年）、３番ダブルスの鈴木颯／萩原啓至（２年）がストレート勝ちを収め、王手をかけました。同時進行で行われた４番と５番は、５番の中村煌和（２年）が先に勝って本校の勝利を確定させ、４番の鈴木颯も強敵を退けて６連覇を飾りました。

個人戦も、シングルス８強のうち本校が５人、野田学園が３人と、ライバル校同士でしのぎを削りました。

高校３冠の鈴木颯（写真はいずれもニッタクニュース提供）

シングルス決勝は、鈴木颯と吉山僚一の名電３年生対決になり、鈴木がフルゲームの激戦を制して初優勝しました。ダブルス決勝は、鈴木颯／萩原啓至が野田学園ペアと対戦。先にゲームカウント0-2と王手をかけられましたが、ここから流れを引き寄せて２ゲームを取り返し、最終ゲームも11-6で制して大逆転で初優勝をつかみました。

中学は３連覇逃がす

第53回全国中学校卓球大会は８月19～22日、北海道苫小牧市総合体育館で開催され、中学卓球部は男子団体３連覇を逃してベスト８の成績でした。男子団体で、本校はライバル校としてしのぎを削る野田学園（山口）と準々決勝で対戦し、１－３で敗れました。個人戦では吉山和希（３年）が３位、持田陽向（２年）がベスト８の成績を収めました。

世界卓球　日本男子チームが銅メダル

大学卓球部の横谷晟（２年）が出場した２０２２世界卓球選手権成都大会（９月３０日～１０月９日）で、日本男子チームは見事に銅メダルを獲得しました。

男子団体の予選グループリーグで、日本はイラン、ルーマニア、香港、ハンガリーと争うグループ３に入り、４戦全勝で１位通過しました。決勝トーナメントでは一回戦のブラジルに３－０、準々決勝でポルトガルに３－１と勝ち上がり、準決勝で今大会の優勝チームとなる中国と対戦しました。日本は王者中国を相手に２－３と善戦し、２大会ぶりとなる銅メダルを手にしました。横谷も予選グループリーグで戦い、貴重な経験を積みました。

横谷晟（ITTF 提供）

全日本卓球選手権大会男子団体で初優勝

実業団・大学・高校などの強豪チームが競う 2022 年全日本卓球選手権大会(団体の部) は 10 月 14 ～ 16 日､あいハウジングアリーナ松元（鹿児島市松元平野岡体育館）で開かれ、男子団体で大学卓球部が初優勝を飾りました。

準決勝でシチズン時計との大激戦を制した本学チームは、決勝で日野キングフィッシャーズと対戦。１番の篠塚大登（１年)、２番の横谷晟（２年）がそれぞれ 3-1 で勝利して王手をかけ、３番の谷垣佑真（１年）もフルゲームの激戦の末に勝利してマッチカウント 3-0 で初優勝を決めました。

初優勝の大学卓球部

篠塚大登

横谷晟

谷垣佑真
（写真はいずれもニッタクニュース提供）

全日学　男子シングルス田中と女子ダブルス信田／谷渡が初優勝

男子シングルス優勝の田中佑汰

１０月２０～２３日に滋賀県 YMIT アリーナで開催された第８８回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）で、本学卓球部は男子シングルスの田中佑汰（４年）と女子ダブルスの信田ことみ（３年）／谷渡亜美（同）が、ともに初優勝を飾りました。このほか、男子シングルスの横谷晟（２年）と女子シングルスの岡田琴菜（２年）が、それぞれ４強入りしました。

男子シングルスの田中は、準決勝で横谷との同士討ちを制し、決勝で中央大学の小野寺翔平選手と対戦。第１ゲームを落とすも、強力な両ハンドを武器にしっかりコースを突き、４－２で念願の個人戦タイトルを手にしました。

女子ダブルス優勝の
信田ことみ（左）/ 谷渡亜美

女子ダブルスでは、接戦の連続の中を勝ち上がってきた信田／谷渡ペアが、決勝でも東京富士大学の千葉菜月選手 / 泉田朱音選手を相手に抜群のコンビネーションを発揮。フルゲームの戦いの末、初の全国タイトルを獲得しました。

卓球インカレで男子準優勝、女子３位

準優勝の男子卓球部

３位の女子卓球部

第９１回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）は７月６～９日、豊田市のスカイホール豊田で開催され、男子卓球部が準優勝しました。女子卓球部は３位の成績を収めました。

予選リーグから決勝トーナメント準決勝までの各試合を３－０で勝ち進んだ男子卓球部は、決勝で世界卓球２０２１銅メダルペアの戸上隼輔選手／宇田幸矢選手らを擁する明治大と対戦しました。１番シングルスで篠塚大登（１年）が勝ち、３番ダブルスで主将の田中佑汰（４年）／篠塚ペアが戸上／宇田ペアを退けましたが、ラストまで争う激戦となった末、残念ながら大会３連覇は達成できませんでした。女子卓球部は準決勝で今大会優勝チームの神戸松蔭女子学院大と対戦し、善戦及ばず１－３で終わりました。

３年ぶりの地元開催となった大会で、本学は２０１９年に続く２回目のアベック優勝を目指しましたが、願いは来年に持ち越されました。

全日本吹奏楽コンクールで金賞受賞

高校吹奏楽部は１０月２３日、名古屋国際会議場で開催の「第７０回全日本吹奏楽コンクール」に東海支部代表として出場し、見事に金賞に輝きました。

高校部門全国最多の４４回目の出場を果たした同部は、自由曲に酒井格作曲「森の贈り物」を選び、顧問の伊藤宏樹教諭の指揮により、光と命に満ちあふれる森の情景を瑞々しく奏でました。演奏が終わると同時に大きな拍手が巻き起こる名演となりました。

同部は１０月１５ 日に長野市で開かれた第３６回東海マーチングコンテストでも金賞を受賞し、１１ 月２０日に大阪城ホールで開かれる第３５回全日本マーチングコンテストに出場します。

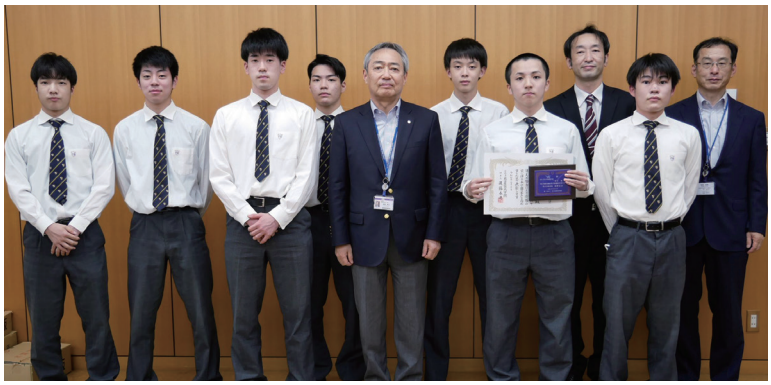
聴衆を魅了したサマーコンサート

一方、同部恒例のサマーコンサートは、７月１７日に日進市民会館、１８日に名古屋国際会議場センチュリーホールで、それぞれ開かれました。全日本吹奏楽コンクール課題曲「ジェネシス」で幕開け後、「そよ風のマーチ」（松尾善雄作曲）などを華やかに披露しました。

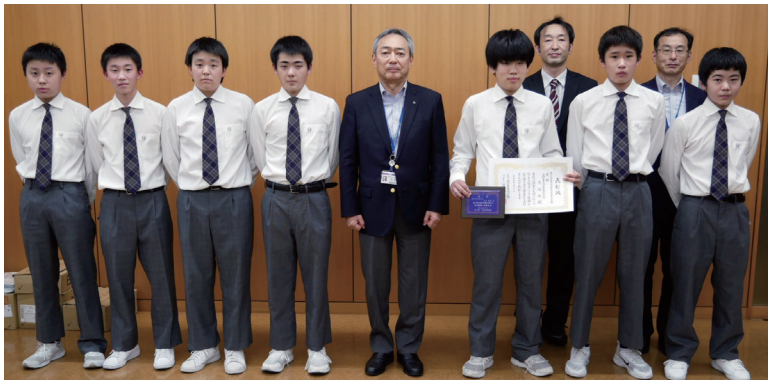
プログラム後半では、１年生部員が演出を手掛けた夏の名曲のメドレーに続き、特別ゲストとして人気トランペット奏者で名古屋音楽大学准教授の上田じんさんが登場。上田さんは演奏活動の傍ら地域貢献などに力を注ぎ、同部トランペットパートの指導にも当たっています。サマーコンサートでは「サンチェスの子供たち」（チャック・マンジョーネ作曲）などの楽曲でフリューゲルホルンやトランペットを手にし、部員たちとの若々しい共演が会場の吹奏楽ファンを魅了しました。

中高卓球部を学園表彰

学園は５月３０日、春の選抜大会を制覇し頂点に立った中高卓球部に対して、学園表彰を行いました。名古屋電気学園愛名会からもお祝いが贈られました。



高校卓球部



中学卓球部

高校卓球部は、第４９回全国高校選抜卓球大会（３月１８～２１日・栃木県総合運動公園）で堂々の７連覇を成し遂げました。第２３回全国中学選抜卓球大会（３月２６～２７日・愛媛県武道館）に出場した中学卓球部も２連覇を達成しました。

表彰式は高校で行われ、後藤泰之理事長から選手と指導者に表彰状が手渡されました。後藤理事長は両部の活躍をたたえ、「日ごろの努力の結果が実を結んだ。打倒名電を目指す他校に打ち勝ったことに自信を持っていい」と激励しました。

これにこたえ、部員を代表して高校卓球部の鈴木颯主将、中学卓球部の吉山和希主将が、夏のインターハイや全中に向け「チーム一丸となって頑張ります」と誓いました。両部顧問の今枝一郎・高校卓球部監督も、「連覇の伝統を受け継ぐ部員たちの強い思いから生まれた結果と思っています。これに満足せず、さらに歴史がつながるよう頑張っていきます」と決意を述べました。

第５４回全日本大学駅伝対校選手権大会に参加して　陸上競技部監督 奥野佳宏

１区	苅谷真之介	経営学部３年	春日井東
２区	深谷　涼太	経営学部４年	豊明
３区	山本　駿太	経営学部３年	伊賀白鳳
４区	原田　侑弥	経営学部４年	愛工大名電
５区	端野　光将	経営学部３年	四日市工業
６区	金尾　凌太	工学部　１年	四日市工業
７区	吉田　椋哉	経営学部２年	豊明
８区	渡邉　大誠	経営学部４年	愛知黎明

大学三大駅伝の１つ、秩父宮賜杯第５４回全日本大学駅伝対校選手権大会が１１月６日行われ、本学は３年ぶり１９回目の東海地区代表校として出場しました。

「箱根駅伝」「出雲全日本大学選抜駅伝」と合わせ、大学三大駅伝と呼ばれる全日本大学駅伝は、全国津々浦々で地区代表校を決定する選考会が実施され、前年度シード校、地区代表校、オープン参加の学連選抜２チームを含む 27 チームが出場し、名古屋市の熱田神宮から三重県伊勢市の伊勢神宮までの８区間、106.8 キロで日本一を決める大会です。本学は６月の選考会以後、「総合１７位、５時間３０分、次年度東海地区成績枠確保」を目標に掲げ、チームづくりに取り組んできました。３年ぶりとなる夏合宿の実施、高地トレーニングやディスカッションで、チームの一体感、競争力、走力の向上を目指してきました。

近年、長距離界は、シューズやウェアラブル機器、トレーニング方法の進化で高速化が進んでいます。本大会でも、大会記録を上位４校が更新する中、本学の選手は力走し、愛知工業大学としての記録を更新しました。それでも結果は２０位、東海地区成績枠確保は達成することができず、悔しさと課題発見の大会になりました。７区以降繰り上げスタートとなり、本学のたすきはゴールまでなつげることができませんでしたが、早朝よりスタート地点や沿道に駆けつけてくださった大学関係者の皆様、さまざまなサポートをいただいた関係者、世代を超えた卒業生や保護者のつながりは、今回の駅伝でさらに強くなったと確信しています。そのつながりに我々は一押しをいただき、持続可能な新時代に向けた活動に取り組み、全国の舞台で再び戦えるチームづくり、人づくりを目指します。

持田陽向
（写真はニッタクニュース提供）

持田陽向、全日本卓球選手権（カデットの部）優勝

JOC ジュニアオリンピックカップ２０２２年全日本卓球選手権大会（カデットの部）は１０月２８～３０日、奈良市中央体育館で開かれ、中学卓球部の持田陽向（２年）が１４歳以下男子シングルスで初優勝しました。１３歳以下男子シングルスでも郡司景斗（１年）が準優勝し、男子ダブルスでも郡司景斗／月原弘暉（１年）が準優勝しました。

設置校卓球選手が世界の舞台で活躍

吉山和希（WTT 提供）

設置校の卓球選手が、今季も以下の WTT などの国際大会で優秀な成績を収めました。

【5 月】フィーダー フリーモント　男子シングルス優勝･篠塚大登（大学）、男子ダブルス２ 位・篠塚大登／田中佑汰（大学）▼ユースコンテンダー ベルリン　U15 男子シングルス優勝・吉山和希（中学）、U17 男子シングルス２位・吉山和希▼ユースコンテンダー プラッジャ・ダロ（スペイン）　U15 男子シングルス優勝・吉山和希【6 月】ユースコンテンダー ハビージョフ（チェコ）　U19 男子シングルス３位・吉山僚一（高校）、U15 男子シングルス２位･吉山和希▼コンテンダーザグレブ　男子ダブルス３位・篠塚大登【７月】フィーダー ヨーロッパ夏季シリーズ（ハンガリー･ブダペスト）　男子シングルス３位 ･篠塚大登【８月】ユースコンテンダー ヘルシンボリ（スウェーデン）　U-19 男子シングルス２位・吉山僚一、U-17 男子シングルス２位・吉山和希▼フィーダー オロモウツ（チェコ）　男子ダブルス２位・谷垣佑真（大学）/ 横谷晟（大学）【９月】第 26 回アジアジュニア・カデット選手権ビエンチャン大会　U19 男子団体準優勝・坂井雄飛（高校）、U19 男子ダブルス優勝・坂井雄飛▼ユーススターコンテンダー スコピエ（北マケドニア）　U19 男子ダブルス優勝・鈴木颯（高校）/ 吉山和希、U19 男子シングルス２位・鈴木颯▼コンテンダー アルマトイ（カザフスタン）　男子シングルス３位・篠塚大登

高校総体フェンシング　女子学校対抗準優勝

インターハイ準優勝の
フェンシング部女子

８月５～８日、高松市総合体育館で開催された全国高校総体フェンシング競技で、高校フェンシング部は女子学校対抗で準優勝を飾りました。男子も学校対抗ベスト８など全種目で入賞を果たしました。

フェンシング部女子は東海総体を 50 年ぶりに優勝した勢いで、インターハイの決勝戦まで進みましたが、東京の東亜学園に惜しくも敗れました（決勝戦：愛工大名電３－５東亜学園）。「本当に頑張りましたが、この歴史を塗り替えられるように今後も努力をしてまいります」と冨田弘樹監督は話しています。

個人戦は、女子サーブルで金高生幸（1 年）が準優勝しました。このほか、男子フルーレ で林川琉偉（1 年）、男子サーブルで堀智貴（３年）、女子フルーレで山田ひなた（３年）が、それぞれ３位に入賞。男子エペで弓長昇主（３年）がベスト８の成績を収めました。

全中フェンシング個人戦で入賞

第８回全国中学生フェンシング選手権大会は７月 22～24 日、東京の駒沢オリンピック公園で開かれ、中学フェンシング部は個人戦女子フルーレで弓長皇美子（３年）が５位、男子サーブルで奥井咲之祐（３年）が９位などの成績を収めました。

日本高校ダンス部選手権でスモールクラス８位入賞

８位・優秀賞のスモールクラス

FOD 賞のビッグクラス

東京都江東区の東京ガーデンシアターで８月１６～１７日に開催された第 15 回日本高校ダンス部選手権夏の公式全国大会で、高校ダンス部はスモールクラス（2 ～ 12 人）８位･優秀賞、ビッグクラス（１３～４０人）19 位・FOD 賞を受賞しました。

今大会の出場校数はコロナ禍前を上回るスモールクラス 303 校、ビッグクラス 305 校に増えていたため、かなり厳しい評価が予想されましが、スモールクラスは２度目の８位入賞を果たすことができました。

ビッグクラスは昨年は全国大会出場を決めながらも、大会前日にコロナウイルスの影響を受け出場辞退を余儀なくされました。「今年こそは全国大会へ」という強い気持ちを持ち、また大人数であることから感染予防も徹底して大会に照準を合わせてきました。

その結果、ビッグクラスとして初めて特別賞（FOD 賞）を受賞することができました。顧問の清水隆博教諭は「スモールクラスも全国大会での特別賞（2016 年・ストリートダンス協会賞）をきっかけに全国大会上位に入るようになってきたので、ビッグクラスも新たな流れができてきたと感じています」と手ごたえを話しています。

国体でも活躍

栃木県で開催された第７７回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」では、学園の選手たちも愛知県代表として活躍しました。

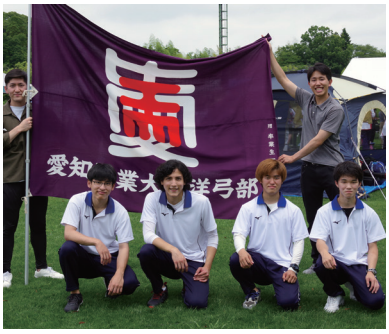
卓球では、成年男子の愛工大が決勝で山口県代表にストレート勝ち。少年男子でも愛工大名電高が決勝で山口県代表と対戦し、約３時間半に及ぶ激戦の末に勝利しました。

バレーボール少年男子では、愛工大名電高の選手ら合同の愛知選抜が、決勝で熊本（インターハイ３位の鎮西高単独）と対戦し、２－３のフルセットで敗れ準優勝となりました。名電主体チームの全国大会準優勝は、バレーボール部創部以来初めてです。

大学野球秋季リーグ　２選手がベストナイン

愛知大学野球連盟の秋季リーグ戦１部リーグで、大学硬式野球部は６勝８敗・勝点２ で４位の成績でした。閉会式で、２年生の宮川怜外野手（写真㊧）と白井風我二塁手（同㊨）がベストナインに選ばれました。

全日本学生アーチェリー男子王座決定戦



大学洋弓部は６月１８～１９日、静岡県 つま恋リゾート彩の郷で開催された第６１回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦に出場し、ベスト１６の成績を収めました。

関西学生フェンシング選手権で男子大学対抗戦エペ優勝、フルーレ３位

男子大学対抗戦エペ優勝

男子大学対抗戦フルーレ３位

１０月１８～２３日に京都府大山崎町体育館で開催された第７１回関西学生フェンシング選手権大会で、大学フェンシング部が男子大学対抗戦エペ優勝、フルーレ３位の成績を収めました。サーブルでも６位となり、３種目ともに同体育館で１１月１５～２０日に開催されるインカレ（２０２２年度全日本学生フェンシング選手権大会)出場を決めました。男子個人戦でも、フルーレでベスト１６の前田航希（３年）と井原佑介（２年）とベスト３２の有吉翔音（２年)、エペで４位の山代屋和史（２年）とベスト１６の土井崇愛（３年）とベスト３２の水谷天風（３年)、サーブルでベスト８の金森冬馬（３年）と伊東英汰（２年）の合わせて８選手が、インカレ出場権を獲得しました。

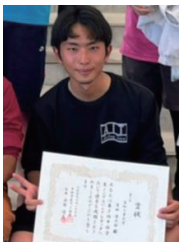
全日本学生ヨット個人選手権大会出場

大学ヨット部の鈴木優太（4 年)・高島雅久（同）組が 2022 年中部学生ヨット個人選手権大会（6 月 18 ～ 19 日・蒲郡市海陽ヨットハーバー）470 クラスで優勝し、全日本学生ヨット個人選手権大会出場を決めました。

中部水域 (愛知、三重、静岡、岐阜、長野) で活動するヨット部員が競い合う大会で、470 クラスの鈴木・高島組は前方で艇のバランスを取りセールの調整をするクルー（鈴木）と後方で舵を操作するヘルムス（高島）が阿吽の呼吸でレースを運び、優勝を勝ち取りました。

２人は「今回の優勝は監督や OB のご指導の賜物です。僕たちは大学からヨット競技を始めたため、経験者たちに勝つことだけを考えて日ごろの努力を怠らず、練習に励んできました。中部を背負う身として全日本大会でも頑張ります」と話しました。

全日本学生ヨット個人選手権シングルハンドレガッタ出場



ヨット部の吉田康太郎(2 年)が 2022 年度中部学生シングルハンドレガッタ大会(6 月 26 日･蒲郡市海陽ヨットハーバー）に出場し、シングルハンドクラスで３位となって全日本学生ヨット個人選手権大会出場を決めました。シングルハンドクラスは、ヨット操作・状況判断を一人で行い、セーリングを競う競技。シングルハンドレガッタ大会初参加の吉田は「全日本学生ヨット個人選手権大会に向けて精一杯頑張りたいと思います」と抱負を述べました。

トピックス

鈴木颯、世界ユース卓球選手権日本代表選考会で優勝

千葉県旭市で９月１３～１８日に開催された「世界ユース卓球選手権大会 日本代表選考会 in 旭市」の男子Ｕ－１８で、高校卓球部の鈴木颯（３年）が優勝し、12 月４～ 11 日にチュニジアで開催される 2022 世界ユース卓球大会の代表に内定しました。鈴木は準決勝で中村煌和（２年）との同士討ちを制し、決勝で前出陸杜選手（高田高）を下して代表の座をつかみました。

東海学生卓球秋季リーグでアベック優勝

一宮市総合体育館で９月１２～１４日に開催された東海学生秋季リーグ戦で、男女ともに大学卓球部が優勝しました。個人賞の最優秀選手賞は、男子が谷垣佑真（１年)、女子が大川真実（２年)、殊勲賞は、男子が横谷晟（２年)、女子は岡田琴菜（２年）が、それぞれ受賞しました。

第５１回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）

第５１回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）は９月１７～１９日の３日間、ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館）で開かれました。７４０人の参加選手が、ピンポン外交に尽力した後藤鉀二先生、平成３０年６月に逝去した学園総長・後藤淳先生の遺影が見守る下で熱戦を繰り広げました。

学園設置校の選手たちは、男子シングルスで中村光人（大学３年）が優勝を飾り、谷垣佑真（同１年）が準優勝、田原彰悟（同４年）が３位入賞しました。男子ダブルスでも田原／谷垣組が優勝しました。このほか、女子ダブルスで岡田琴菜（同２年）／大川真実（同）組がベスト８の成績を収めました。

クラブ表彰

学園は７～１０月にかけ、全国大会に出場の各クラブに対してクラブ表彰を行いました。後藤泰之理事長が「目標は高く、優勝を目指して頑張ってほしい」などと激励し、愛名会や高校同窓会、高校ＰＴＡからもお祝いが贈られました。

【7月１１日の表彰】

▽令和４年度全国高等学校総合体育大会出場
卓球部、フェンシング部、バレーボール部、相撲部、ウェイトリフティング部、陸上競技部
▽第 46 回全国高等学校総合文化祭出場
将棋部、競技かるた部、
▼高校ボウリング部
JOC ジュニアオリンピックカップ第 46 回全日本高校選手権大会
▼高校チアリーディング部
Japan Cup 2022　日本選手権大会
▼高校メディアコミュニケーション部
第 69 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト

【８月１日の表彰】

▼高校水泳競技部
令和４年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
第９０回日本高等学校選手権水泳競技大会競泳競技
▼高校ダンス部
日本高校ダンス部選手権夏の公式全国大会２０２２スモールクラス・ビッグクラス
▼高校野球部
第１０４回全国高等学校野球選手権大会
▼高校ゴルフ部
２０２２年度全国高等学校ゴルフ選手権大会文部科学大臣杯争奪第６６回個人の部
２０２２年度（第２７回）日本ジュニアゴルフ選手権競技男子１５～１７歳の部
▼中学フェンシング部
第８回全国中学生フェンシング選手権大会

▼大学陸上競技部
秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会
▼大学ライフル射撃部
第 24 回日本学生選抜スポーツ射撃競技大会
▼大学洋弓部
第 61 回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦
▼大学ヨット部
全日本学生ヨット個人選手権大会
▼大学バレーボール部
アクティオ杯第３４回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会ビーチバレーボール・ジャパン・カレッジ２０２２

【１０月４日の表彰】

▼高校メカニカルアーツ部
第 19 回 WRO2022Japan 決勝大会 in 浜松
▼高校吹奏楽部
第 70 回全日本吹奏楽部コンクール
▼中学卓球部
第 53 回全国中学校卓球大会

発行　名古屋電気学園愛名会